

MEMBERS

Associate Professor 伊藤香織

M2

川喜田沙
鈴木志帆
関口由佳
齋藤祐二
谷 知子
中口裕太
早川雄大
船瀬 鐘
益子岳貴

B4

相澤裕美
石橋理志
伊藤慎吾
大澤郁美
岡田早由里
小野田龍
香川 瞳
川上那華
近藤秀彦
高田三輝
中川俊太郎
宮川卓也
三輪南英子
山口真理香
吉村元宏

M1

片田江由佳
兼森 毅
佐藤美緒
瀧長佑介
田中理恵
宮崎高明
吉本浩典

fab C.

vol.5

fab C. vol.5
2011年1月1日 発行

編集 近藤秀彦 宮川卓也 川上那華
兼森 毅 益子岳貴

発行 伊藤香織都市計画研究室
東京理科大学
理工学部 建築学科
〒278-8510
千葉県野田市山崎2641
TEL: 04-7123-4785(研究室直通)
URL: www.rs.noda.tus.ac.jp/~fab/

印刷・製本
祥美印刷株式会社

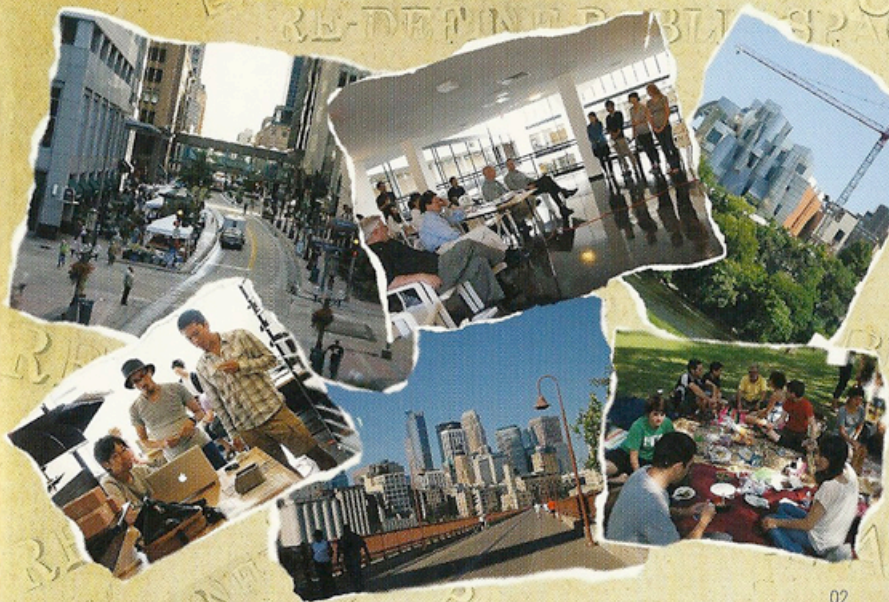
i-lab

01. Index
02. TUS-UMN Joint Design Workshop
07. Civic Pride Research
09. Picnic Interview
11. Thesis & Design
13. Students' Activities
15. Voices of Alumni

fab C. は、伊藤晋織研究室(東京理科大学理工学部建築学科)が発行するフリーペーパーです。研究室の活動を中心に、都市の研究とデザインに関する情報やメッセージを発信する媒体を目指しています。

Tokyo University of Science - University of Minnesota Joint Design Workshop "RE-DEFINE PUBLIC SPACE"

伊藤准教授とミネソタ大学助教授で建築家のブレイン・ブラウネル氏の指導のもと、ミネソタ大学の建築学生と伊藤研究室との合同ワークショップをミネソタ大学で行いました。米国ミネソタ州のミネアポリスとセントポール(双子都市)には、世界初のドラッグストアとされるニコレットモール、街の2階レベルを縦横に結ぶスカイウェイ、ミシシッピ河畔を取り込んだパークシステムなど、豊かなパブリックスペースがあります。ミネソタに住む学生と東京に住む学生が共同で双子都市のフィールドワークを行い、パブリックスペースを「再定義」し、ショー・トム・ビーとして表現しました。ワークショップではナンシー・A・ミラー非常勤助教授にレクチャーをしていただき、講評会ではゲストクリティックとして、イグナチオ・サン・マルティン教授、リー・ダンダーソン准教授、ジム・ラッツ准教授に参加していただきました。



"Puzzle activities"

中口裕太, 田中理恵, Jeff Johnsen, Christie Roach

ミネアポリスには多様なパブリックスペースがあり、そこでは特定のアクティビティが発生しています。あるパブリックスペースに、別のパブリックスペースで起こるアクティビティを導入させることができれば、もっと多様で豊かな空間を作り出すことができるのではないだろうか?という趣旨で映像づくりを行いました。

"Replace -re-imagining public spaces in streets and skyways -"

兼森毅, 源田洋祐 (初見研究室), Niko Kubota
ミネアポリスのダウンタウンでこの映像は展開します。そこは人で溢れ豊かな公共空間を形成していますが、まだまだ使い方には多くの可能性があると私たちは考えました。そこで、3人の登場人物が軽快な音楽に合わせて、街路とスカイウェイのそれぞれの場所の使い方を「Re (再定義)」するように場所の可能性を示していきました。

"Investigation: Minneapolis Public Space"

宮崎高明, 三輪南美子, Louis Martin, Katie Schalow
日本の学生がミネアポリスを回遊していく中で、広大で居場所の見出しにくいパブリックスペースに、日本の待ち合わせ場所の象徴である「ハチ公」「モヤイ像」などのアイコンを置き、新たな使われ方の提案をしていきます。さらに町中を巡っていき、最後に賑わいの象徴であるスタジアムへとたどり着きます。

"OPEN SPACE - SHADE SPACE"

秋山洋亮 (名古屋大学大学院); 佐藤美緒, Emerson Stepp
高層建築が密集した中心市街地と緑の多い郊外とで全く異なる空間の違いをコンパクトに体験できるミネアポリスの特徴を、影の違いから捉え直して表現し、最後に影を利用したオープンスペースの使い方を提案しました。

"Connecting Minneapolis"

片田江由佳, 吉本浩卓, Sherry Tesch, Amber Sausen
人々と環境との相互作用の促進・コミュニケーションスペースの提供・サイクリングとウォーキングの促進これらの3つを私たちのテーマとしました。私たち日本人の視点から新しい空間の使い方を見出し、新しくデザインを施すことでウォーターフロントとハイウェイの利用をプロモートすることを試みました。

(図版は左から順に対応)

Investigation: Minneapolis Public Space

ミネソタ大学の学生と共に日米混成の5グループ作り、「Re-define public space」という課題でデザインワークショップを行いました。ミネアポリスとセントポールをサーベイし、デザイン提案を含めて、約8分間の動画で表現しました。動画は、ウェブサイト上でご覧いただけます。

<http://www.cs.noda.tus.ac.jp/~i-lab/project/define.html>



M1 田中理恵
ミネアポリスのパブリックスペースの多さには驚きました。たくさんの公園、ミシシッピ川沿いのウォータフロント、ミネソタ大学の構内も、大学とは思えないほど広くて芝生がいっぱい。そこでは人々が思い思いに過ごしていて、過ごし方は無限にあるんだと改めて感じました。



M1 秋山洋亮 (名古屋大学)
デザイン性の高い建築や超高層ビルがコンパクトにまとまっているダウンタウンと、ミシシッピ川やパークウェイの豊かな自然のメリハリが効いていて、その間をオシャレな LRT やレンタサイクルで気軽に容易に移動できて、お手本にしたい都市だと感じました。



M1 兼森毅
ミネソタから帰国後、おもむろに東京とミネアポリスを地図で比較したところ、WS中に自転車で東京-新宿間くらいの距離を毎日何往復もしていたことがわかりました。ダウンタウン近くに市役所、スタジアム、美術館、大学があり、その周りを住宅街が囲んでおり、そんなに距離を感じさせないコンパクトな都市であり、毎日が充実していました。



B4 三輪南美子
ミネソタは都市計画的に非常に特徴ある街で、パークシステムや雪国ならではのスカイウェイなど東京とは違った街のシステムがみられました。是非次回は冬のミネソタを訪れたいです。

Civic Pride Research

伊藤香織准教授と日本デザインセンターの柴幸田伸子氏を中心に、産学の多分野の専門家が集まって、「シビックプライド（都市に対する自負や愛着）」とコミュニケーション・デザインについての研究・実践をしているのが、シビックプライド研究会です。

2006年の研究会発足時から伊藤研究室の学生が研究会に参加し、調査等の活動を担っています。研究会初期に学生として参加していたメンバーで、現在では社会人等として研究会に参加している伊藤研卒業生もいます。

2010年は、定期的に研究会を行う他に、横浜のBankART1929主催のBankARTスクールで2カ月におたって「シビックプライド講座」を行いました。研究会メンバーによるオムニバス講義と並行して、受講者がグループに分かれてまちをデリバーする総合的な方法を提案するワークを行いました。各グループの提案は、それぞれ異なる持ち味ながら、場所への愛着と情熱を感じさせる魅力的なものとなり、まちの中から生じるコミュニケーションの力に大きな可能性を感じさせました。

2008年に出版した「シビックプライド：都市のコミュニケーションデザインする」（宣伝会議刊）は、様々な分野の読者に興味を持っていただいています。多くの人たちが大切だと思っていた事柄に「シビックプライド」という言葉がフィットしたのではないのでしょうか。

最近では、伊藤准教授や他の研究会メンバーによる講演やワークショップが各地で行われているとともに、本研究活動に共感・共鳴する独自の活動も現れてきています。今後は、日本の様々な地域で行われている優れたデリバリーのデザインからも学んでいきたいと研究会一同意気込んでいます。

Legend

- 講演・WSなどを開催した地域
- 近年「シビックプライド」という言葉を使用している代表的な自治体・行政組織・外郭団体等



横浜のBankARTスクールで「シビックプライド講座」を開催。（June-July, 2010）



相模原市シァッセールズ開催WGにオブザーバ参加させていただきました。（July-September, 2010）



四国経済産業局「四国らしさ」ってなんだろう？ノート」は「シビックプライド講座」でも紹介されました。



「都市フォント構想」を推進するタ イププロジェクトによる「金シャチャフォント」は「名古屋らしさ」の目 録に紹介されています。



商店街ロゴや「いがたのおむすび」をデザインするhickory03travelersは新潟市上町商店街が、ライフスタイルのデザインを発信。



富士ライトレール「ボードラム」のトータルデザインは、コンパクトシティを目指す都市ビジョンを分かりやすく魅力的に伝えています。

Picnic Interview

20101120 @ Haneda Airport

Q: 地形に興味を持つようになったのはいつ頃からですか？

Ishi: 実は学生の頃はそうでもなく、仕事で地図を良く見るようになってからです。自分の興味はこれだったのだから感じ、きっかけとして東京の地形の発見が大きい。

Q: 平らな場所には興味は無いんですか？

Ishi: 本当に単に平らな場所なんて無く、どこかに微地形があるし、そういう部分が好きになる。平坦だと思われている東京の下町低地も川の付近が盛り上がっていたり、このデッキだって水勾配がついている。

Q: 一番好きな風景はなんですか？

Ishi: 好きな風景はいろいろとあるし、逆に本当につまらないだけの風景は思いつかない。むしろ「良い・美しい風景/景観」「良くない・醜悪な風景/景観」と対比したり序列づけたりする議論に反発があります。どんな風景もそこから魅力を引き出しうるといふ所から出発したい。自分は都市も田舎も、工場も里山も自然景観も好き。様々な風景に関するリテラシーを持ちたい。

Q: 最近、建築ではよく森のメタファーを見聞きます。森とは何だと思えますか？

Ishi: 定義は色々であるけど、通常はあまり人の手が加わっていない、生態的に安定した樹林の相を指します。僕らの分野では、少なくとも数百年経ったものじゃないと「森」なんて呼べない。みたいな空気がある。「メタファー」としてだって迂闊に「森」なんて言えない。

都市の公共空間を使いこなさ、人との交流の空間と時間をデザインする実践として、伊藤研究室では折に触れピクニックを行っています。ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き一緒に食事を楽しみながら、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は羽田空港に石川初さんをお招きしました。



Q: 東京の将来構想から住宅の屋上のレベルまで、建築家からいろいろな緑化の提案がありますが、どう思えますか？

Ishi: 「緑化」はそれが何を目的にしているかによるよね。例えば屋上を緑化する利点としてよく言われるのは、断熱効果による空調負荷の軽減とか、植物や土壌の雨水貯留能力による流出抑制効果とか、蒸散によるヒートアイランド現象の緩和とか、光合成によるCO₂削減とか、でも、どれも植物を使わないと実現しない性能ではないし、断熱も貯留も植栽を使わない方法の方が維持管理コストが低くて合理的だったりする。機能的にだけ見れば、植栽じゃなきゃいけない理由は「政治的に正しい」以外にそんなにないんです。中身を検討しないまま、緑化すれば多くの問題が解決するような使われ方をしている場合が気になります。

Q: 石川さんが期待する事として、これからは建築の学生もランドスケープを学ぶべき？

Ishi: 色々な見方ができるようになる、様々な視点を持てるようになるという点では、学ぶべきことは多いと思います。ただ、先ほどの緑化の話のように、ただ建築を正しくするような建築以外の材料で建築の理由を補強するような動機かどうかと思います。異なる分野を知ることでお互いの領域をリスペクトし、語彙が増えるのは良いと思いますが、まずは徹底して建築ができる、建築をやる人材にいてほしい、と僕の立場からは期待します。

石川初さん プロフィール

京都生まれ、株式会社ランドスケープデザイン勤務。専門は造園設計。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、地上絵師、所属団体に、日本造園学会、日本生活学会、日本荒地学会、東京スリパチ学会、翌青会、東京ピクニッククラブなど。

GUEST: Hajime Ishikawa



Thesis&Design

都市計画論文集, no. 45-3, pp. 427-432.

佐野由有・伊藤香織 (2010),

「経路探索行動からみる都市空間把握の文化的差異：地理情報媒体に着目した実証分析」

研究の要旨：本研究は、移動に利用する地理情報媒体の違いが空間把握のし方に与える影響を実証的に捉え、空間情報と実空間のつなぎ方の文化的差異を明らかにすることを目的とする。日本人15人及び北米出身の外国人15人を被験者として、地図のみ/経路案内文のみ/地図及び経路案内文のいずれかの地理情報媒体を持って、目的地に向かう経路探索の実験を行った。経路探索の過程で、不安の度合いの変化及び探索アクションの発生を観察した。実験結果の分析から、主に以下の点が明らかになった。(1)日本人にとっては地図利用が、北米出身者にとっては経路案内文が、経路探索に利用しやすい。(2)北米出身者にとっては、地図上に図形として示される道路の角度や幅員の差異を読み取り実空間と照合することが困難である。(3)日本人は方向転換する交差点での地理情報媒体の確認作業に重点を置く傾向があるのに対して、北米出身者はすべての交差点で同等に確認作業を行う傾向がある。

2009年度修士設計

齋藤丈寛

「風景の捏造」



以前から、「風景」というある種抽象的な概念に、「建築と都市」を引き合わせる手がかりが隠されているのではないかと、漠然と感じていた。本計画では「風景＝場の固有性」と捉え、雑多な固有性が無秩序に入り交じるが故に、捉えどころ無く均質に広がる現代都市に「場のアイデンティティ」を作り出す事を目的とする。そこで敷地条件の「重なり方」を新たな風景を生む根拠と捉え、「仮想地形面」を生成することで「全体性と部分の差異」を持った風景を作り出した。今回生まれた風景が建築と都市の豊かな関係を結ぶ新たな契機となることを望む。

2009年度
修士論文

商業地区における子どもの通学時の行動に関する研究—経路選択と遊び行為に着目して— 市野古剛
 コミュニティバス利用促進のための観光利用の可能性—金沢市ふらっとバス事業を対象として— 今浦善
 仮想評議法による廣域を転用した文化施設の評価—京都芸術センターを事例として— 世谷竜起
 経路探索行動から見る都市空間把握の文化的差異—地理情報ツールの違いに着目して— 佐野由有
 スペースシンタクスをを用いた那覇市の戦後の都市形成過程に関する研究— 減額さむ
 個人経営主の意識にみる高層別在の魅力と課題—長野県安曇野市穂高温泉郷を事例にして— 中谷将

2009年度
卒業論文
通年

地域社会におけるコミュニティスクールの可能性—川崎市立川中島小学校を事例として— 阿部剛
 今治市街地の形成過程に関する研究—Space Syntaxを用いた形態分析— 佐藤美緒
 着地型観光の情報と空間体験—横浜における自転車観光の調査分析— 大塚麻里絵 小向得志すか

2010年度
卒業論文
半年期

鉄道駅をメディアとした都市情報の発信—活動主体の役割と関係性に着目して— 川上那華 中川俊太郎
 丸の内通り通りの普座空間における居方分析と街路デザインの提案— 岡田早百合
 ファサードが形成する都市空間のイメージ—ファサードマップを用いた経路探索実験を通して— 小野田龍 近藤秀彦 宮川卓也

2009年度卒業設計



秋山洋亮 人と木の丘



藤森毅 絵となること。



瀬長祐介 Museum of Mondrian



田中理恵 Gateway City Naneda



宮崎高明 次世代型スタジアム構想



吉本浩卓 自然模倣



宗像美優子 穴と崖と川の流れ

Students' Individual Activities



都市環境デザインスタジオ (Urban Space Design Studio)

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) を拠点に、東京大学、千葉大学、東京理科大学、筑波大学の大学院生等が参加し、都市環境デザインスタジオ (UDS) が行われています。2010年度は、近年開発が進む柏の葉国際キャンパスタウンおよび開発から30年が経過する東急柏ビルを対象に、地域の方々にお話を伺いながら、魅力的なまちづくりを企画し、地域の将来像を描く課題に取り組んでいます。

M1 片田江由佳、兼森 毅、佐藤美緒
田中理恵、吉本浩卓



CSIS DAYS 2010

東京大学空間情報科学研究センターが主催するCSIS DAYS 2010「全国共同利用研究発表大会」(2010/11/11~12)で、研究発表を行いました。様々な分野の研究者の方から質問やコメントをいただき、とても良い経験になりました。「Space Syntax 理論を用いた都市形成過程に関する研究：今治市中心市街地の都市形態分析」(佐藤美緒、伊藤香織)。

M1 佐藤美緒



CABE 勉強会

学術、民間実務、行政等の専門家が集まって、イギリスの行政機関「建築都市環境委員会 (CABE)」に関する非公式な勉強会が行われており、オブザーバ参加させて頂いています。CABEは、建築やアーバンデザインについて技術的で実践的なアドバイスを提供する行政機関です。その活動内容や、日本での可能性などを勉強しています。

M1 佐藤美緒



メガシティプロジェクト

「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト」プロジェクト(総合地球環境学研究所)のシナリオ班に参加しています。2010年度は、ジャカルタから都市計画に携わる行政の実務者や研究者を迎え、東京でワークショップを行いました。ジャカルタ、メキシコシティ、東京を事例として、人口密度分布をプラットフォームとする2050年の3シナリオを議論しました。ワークショップに先立って、「ジャカルタからのゲストに」世界最大のメガシティ「東京を案内し、東京の高密・中密地域を見ていただきました。

M2 高橋祐二、M1 兼森 毅、吉本浩卓



BankART スクール

シビックプライド研究会が実施するBankART スクールの講座の記録担当として参加させていただきました。横浜の伊勢佐木町、野毛山などの街を対象に、シビックプライドを共有するためのコミュニケーションをデザインするグループワークが行われました。職業も居住歴も様々な受講者から、ロゴ、キャッチコピー、イベントなどの提案がなされました。

M1 片田江由佳



相模原市シティセールス

2010年に政令指定都市となった相模原市で、若手職員が中心となって行われるシティセールス推進ワーキングにオブザーバ参加させていただきました。日本の中で相模原を戦略的に位置づけていくための面白いアイデアが数多く出てきて、ワークショップという形式を通して市の方針が形成されていく意義と重要性を考えさせられました。

M2 鈴木志帆、M1 片田江由佳、B4 川上那華

Voices of Alumni

伊藤研究室で都市計画・都市デザインについて学び、社会に羽ばたいていった先輩方。現在社会で活躍中の卒業生が、どのようなことを考えながら活動し、かつて「都市」を学んだことが今の仕事にどうリンクしているか尋ねました。そこから見えてくる伊藤研究室出身者の将来像の一端から、何らかの可能性を感じていただけたらと思います。ここでは、二人の卒業生にスポットを当てました。



NP0 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク コーディネーター

阿部 剛 Abe Tsuyoshi

2009 年度 学部卒業

+++ 今の仕事に就いた経緯を教えてください +++

一言でいえば、成り行きでしょうか・・・
限界集落の荒廃した竹林の伐採や、NP0でのフルコミットのインターンを経験しながら、人生を模索していました。その内にやりたいことを公言していたら、今の仕事に就いていました。

+++ 都市と今の仕事はどうリンクしているとおもいますか？ +++

今の仕事は「コーディネーションによる市民参加の社会づくり」です。都市の中に隠されている人材を掘り起こし、社会につなげることで、地域の課題解決に取り組んでいます。それまで存在しなかった人と人との関係を作ることで、都市を構成するストーリーが生まれ、また次のストーリーが生み出される。都市の中でますます希薄化する人間関係を、そんな連鎖反応によって少しずつ変えていきたいと思っています。

+++ 今後の目標を教えてください +++

将来的には、教育を通じたまちづくりをしたいと考えています。一歩間違えればすぐに孤立してしまう都市の中で、自分自身が暮らす街への愛着や人との繋がりを醸成することが重要だと考えています。そのためには、地域住民が子供たちへの成長に関わることで出来るシステムが必要になります。そんな関係性を包括できるような、学校や家庭に続く新しいコミュニティづくりをしたいと考えています。



電通 COO コピーライター（未熟児）

尾上 永晃 Ozono Noriaki

2008 年度 修士課程修了

+++ 今の仕事に就いた経緯を教えてください +++

建築は好きだけれど、その影響力の無さに軽く絶望していました。自分の空間設計能力には、重く絶望していました。が、コンセプトと口先には軽く希望を持っていました。なので、色々とお出来そうなら一番よくわからないところに入りました。

+++ 都市と今の仕事はどうリンクしているとおもいますか？ +++

リンクさせられるほど勉強をしなかったのを後悔中です。無理矢理言えば、webに軸足を置いた広告コミュニケーション設計から、コピーを書いたり、コンテを描いたり、先輩の足なめたりという仕事をする上で、わりと他の皆さんには無い、都市空間の使い方が提案できたりすることってことくらいでしょうか。研究室とのリンクで言うと、伊藤研名物、論文・設計中間発表ごとにパワポを毎回趣向を凝らして作っていたのがプレゼン作業に、鬼の先輩方に論文を構造化させられた経験は、コピーとweb企画に活かしています（足なめ力も、もちろん研究の賜物です。）そもそも建築は総合力なので、わりと真面目にやっけてりゃ何にでも活きる気がします。

+++ 今後の目標を教えてください +++

前の質問ではカッコ良く書きましたが、まだ2年目なんで雑魚もいいところです。雑魚から鯖くらいまで進みたいですね。鯖は本当に美味しい。でも、すぐに腐るので注意が必要です。泳いでいるうちから腐っていると思え、というくらい鮮度管理が難しいのです。そういう人になりたいですね。その上で、都市に住む人々をワクワクさせるような施策ができれば、と思います。



Voices of Alumni

ここでは、幅広い分野で活躍中の何人かの卒業生に「研究室での活動・経験を通して今の仕事でどう活かされているか、もしくはどうリンクしているか教えて下さい」という質問をしました。

都市計画コンサルタント

伊藤 桃子 -Ito Momoko-
2007年度 修士課程修了

景観計画査定にむけた住民ワークショップのお手伝いや大規模跡地利用の提案、小さな村の観光まちおこしといった、市役所のお手伝いをする仕事をしています。シビックプライドの考えを盛り込んだ提案を通せるような大物に成れるよう、今はひたすら資料のまとめやGISなどを頑張ってます。

ITコンサルティング

猪俣 昌也 -Inomata Masaya-
2007年度 修士課程修了

一つは体力的に鍛えられたこと、今の方がプレッシャーは大きいけど、研究室時代に比べたら体力的にはだいぶ楽に感じる。実用的な部分では、図を使ったドキュメント作成力とデータ編集で使ったExcel関数の知識、地味だけどこのスキルはかなり役立つ。

森トラスト(株) 営業本部 営業企画課

藤田 省三 -Fujita Shozo-
2007年度 修士課程修了

私は現在、営業活動をしながら様々な角度・段階でサポートする仕事をしております。(オフィス・住宅のマーケティング、商品企画、営業ツール作成、イベント企画等)

伊藤研時代の経験で最も活かしたことは、議論や活動を通して、色々な立場の人を理解することです。都市という多様性を研究することは様々なスケールで人を知ることであり、それが醍醐味だと思います。

九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻 博士課程

仲村 明代 -Nakamura Akiyo-
2008年度 修士課程修了

現在も大学で研究活動をしているわたしにとって、いかに社会と関わりつづけていくかということは大きな課題です。伊藤研究室では、シビックプライドの研究会をはじめ、社会と接点をもち、その中でたくさんの方と出会い、分野横断的に対話をする経験ができました。この経験が刺激となって、今は研究と並行して、大学と社会をつなぐ「対話の場づくり」に挑戦しています。いつかこの取り組みのこともお伝えしたいと思います。

青年海外協力隊 村落開発普及員

中谷 将 -Nakaya Masaru-
2009年度 修士課程修了

研究室在籍中に、盛んに地方都市とかコミュニケーションなどというキーワードに興味を持っていた私は、欧米や都市部の研究事例と、地方都市の実情のギャップを感じていました。それなら途上国ということと条件が限られている状況で住民と密接に関わる青年海外協力隊に行っちゃえ!という事で1月からモロッコへ派遣されます。途上国の経験が帰国後の自分に良い刺激を与えることを目指して、
C'est la vie! (それが人生だ!)

施工管理(改修)建設

大塚 麻里絵 -Otsuka Marie-
2009年度 学部卒業

工事中の掲示物を作成する機会が多いので、デザインにこだわる傾向がある伊藤研でプレゼン資料を作ったり広報誌を作ったりした経験が生かされていますよ。また、伊藤研究室は学生が主体になって研究室を運営していましたから、個々に責任のある仕事が任されており、今思えば社会人の練習のような感じてました。